

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	東海財務局長
【提出日】	平成30年4月13日
【四半期会計期間】	第66期第3四半期（自平成29年12月1日至平成30年2月28日）
【会社名】	株式会社オータケ
【英訳名】	OTAKE CORPORATION
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 村井善幸
【本店の所在の場所】	名古屋市中村区名駅三丁目9番11号
【電話番号】	052(562)3311(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 加藤邦彦
【最寄りの連絡場所】	名古屋市中村区名駅三丁目9番11号
【電話番号】	052(562)3311(代表)
【事務連絡者氏名】	取締役総務部長 加藤邦彦
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第65期 第3四半期 累計期間	第66期 第3四半期 累計期間	第65期
会計期間	自平成28年 6月1日 至平成29年 2月28日	自平成29年 6月1日 至平成30年 2月28日	自平成28年 6月1日 至平成29年 5月31日
売上高 (千円)	17,926,919	18,958,372	24,054,254
経常利益 (千円)	387,564	395,398	502,881
四半期(当期)純利益 (千円)	259,076	272,638	314,893
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)	-	-	-
資本金 (千円)	1,312,207	1,312,207	1,312,207
発行済株式総数 (株)	4,284,500	4,284,500	4,284,500
純資産額 (千円)	11,012,495	11,592,048	11,182,570
総資産額 (千円)	16,818,029	17,894,579	17,049,759
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	64.32	67.69	78.18
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	-	-	-
1株当たり配当額 (円)	-	-	25.00
自己資本比率 (%)	65.5	64.8	65.6

回次	第65期 第3四半期 会計期間	第66期 第3四半期 会計期間
会計期間	自平成28年 12月1日 至平成29年 2月28日	自平成29年 12月1日 至平成30年 2月28日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	12.12	15.31

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、連結会計年度に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 持分法を適用した場合の投資利益については、当社は関連会社がありませんので記載しておりません。
4. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間において、新たな事業等のリスクの発生、または、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、企業業績の好転や個人消費回復の兆しなども見られ堅調に推移しました。しかしながら足元では円高・株安など経済的な不安定要因も見受けられ、更には国内外の政治情勢への懸念も高まってきており依然として先行き不透明な状況が続いております。

当管材業界におきましては、製造業による国内設備投資は一部の半導体製造設備向けなど回復基調は窺えるものの、一段の力強さには欠ける状態が続いております。

このような状況のもとで、当社は新規取引先の開拓や既存取引先でのシェアアップ、在庫アイテムの見直し等、営業基盤の拡充に努めてまいりました。

この結果、当第3四半期累計期間における売上高は189億58百万円（前年同期比5.8%増）となりました。利益につきましては、売上高増加により売上総利益額が増加となりましたが営業利益は3億7百万円（前年同期比0.8%減）の微減となりました。一方で、経常利益は3億95百万円（前年同期比2.0%増）となり、四半期純利益につきましては2億72百万円（前年同期比5.2%増）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第3四半期会計期間末の総資産は178億94百万円となり、前事業年度末と比べ8億44百万円増加しました。この主な要因は、現金及び預金が3億70百万円、繰延税金資産（流動資産）が35百万円減少しましたが、受取手形及び売掛金が1億82百万円、電子記録債権が4億5百万円、商品が2億43百万円、投資有価証券が4億71百万円増加したこと等によります。

負債合計は63億2百万円となり、前事業年度末と比べ4億35百万円増加しました。この主な要因は、未払法人税等が80百万円、賞与引当金が73百万円減少しましたが、支払手形及び買掛金が4億90百万円、繰延税金負債が93百万円、退職給付引当金が27百万円増加したこと等によります。

純資産額は115億92百万円となり、前事業年度末と比べ4億9百万円増加しました。この主な要因は、利益剰余金が1億71百万円、その他有価証券評価差額金が2億37百万円増加したこと等によります。以上により、自己資本比率は64.8%となりました。

(3) 経営方針・経営戦略等

当第3四半期累計期間において、当社が定めている経営方針・経営戦略等について重要な変更はありません。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社が対処すべき課題について重要な変更はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	13,000,000
計	13,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間末 現在発行数(株) (平成30年2月28日)	提出日現在 発行数(株) (平成30年4月13日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	4,284,500	4,284,500	東京証券取引所 JASDAQ (スタンダード)	単元株式数 100株
計	4,284,500	4,284,500		

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成29年12月1日～ 平成30年2月28日		4,284,500		1,312,207		1,315,697

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7)【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成29年11月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

平成30年2月28日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	普通株式 256,500	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 4,027,400	40,274	-
単元未満株式	普通株式 600	-	-
発行済株式総数	4,284,500	-	-
総株主の議決権	-	40,274	-

【自己株式等】

平成30年2月28日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式総数 に対する所有株 式数の割合(%)
株式会社オータケ	名古屋市東区中村区名駅3-9-11	256,500	-	256,500	5.99
計	-	256,500	-	256,500	5.99

(注) 当第3四半期会計期間末における所有自己株式数は256,500株です。

2【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第63号）に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間（平成29年12月1日から平成30年2月28日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年6月1日から平成30年2月28日まで）に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則（平成19年内閣府令第64号）第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目から見て、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

なお、資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	0.83%
売上高基準	0.54%
利益基準	0.42%
利益剰余金基準	0.98%

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年2月28日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,755,533	1,384,812
受取手形及び売掛金	6,722,791	6,905,021
電子記録債権	1,608,302	2,013,439
商品	1,561,484	1,804,589
繰延税金資産	64,966	29,771
その他	37,754	20,062
貸倒引当金	1,633	1,029
流動資産合計	11,749,199	12,156,669
固定資産		
有形固定資産		
建物(純額)	572,481	552,124
土地	2,498,452	2,498,452
その他(純額)	59,192	60,185
有形固定資産合計	3,130,126	3,110,762
無形固定資産		
143,860		120,297
投資その他の資産		
投資有価証券	1,904,423	2,376,255
関係会社株式	23,000	23,000
その他	142,485	151,111
貸倒引当金	43,337	43,516
投資その他の資産合計	2,026,572	2,506,850
固定資産合計	5,300,559	5,737,910
資産合計	17,049,759	17,894,579
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	4,562,993	5,053,629
未払法人税等	99,543	19,042
賞与引当金	138,300	64,500
その他	153,792	132,814
流動負債合計	4,954,629	5,269,985
固定負債		
繰延税金負債	118,352	212,042
再評価に係る繰延税金負債	134,380	134,380
退職給付引当金	606,136	633,281
資産除去債務	12,213	12,363
その他	41,478	40,478
固定負債合計	912,560	1,032,545
負債合計	5,867,189	6,302,531

(単位：千円)

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年2月28日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,312,207	1,312,207
資本剰余金	1,315,697	1,315,697
利益剰余金	8,579,151	8,751,091
自己株式	449,404	449,404
株主資本合計	10,757,651	10,929,591
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	767,872	1,005,410
土地再評価差額金	342,954	342,954
評価・換算差額等合計	424,918	662,456
純資産合計	11,182,570	11,592,048
負債純資産合計	17,049,759	17,894,579

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)
売上高	17,926,919	18,958,372
売上原価	15,738,541	16,704,465
売上総利益	2,188,378	2,253,906
販売費及び一般管理費	1,878,822	1,946,901
営業利益	309,556	307,005
営業外収益		
受取利息	76	56
受取配当金	31,371	35,688
仕入割引	71,472	76,666
その他	13,374	13,934
営業外収益合計	116,294	126,345
営業外費用		
支払利息	2,881	2,852
売上割引	34,457	34,064
その他	946	1,036
営業外費用合計	38,285	37,952
経常利益	387,564	395,398
特別利益		
投資有価証券売却益	-	9,372
特別利益合計	-	9,372
税引前四半期純利益	387,564	404,770
法人税、住民税及び事業税	99,750	104,686
法人税等調整額	28,738	27,445
法人税等合計	128,488	132,131
四半期純利益	259,076	272,638

【注記事項】

(四半期貸借対照表関係)

受取手形裏書譲渡高

	前事業年度 (平成29年5月31日)	当第3四半期会計期間 (平成30年2月28日)
受取手形裏書譲渡高	1,450,001千円	1,522,320千円

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)
減価償却費	56,458千円	64,903千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成28年8月26日 定時株主総会	普通株式	92,642千円	23円	平成28年5月31日	平成28年8月29日	利益剰余金

当第3四半期累計期間(自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額	1株当たり 配当額	基準日	効力発生日	配当の原資
平成29年8月25日 定時株主総会	普通株式	100,698千円	25円	平成29年5月31日	平成29年8月28日	利益剰余金

(セグメント情報等)

前第3四半期累計期間(自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)及び当第3四半期累計期間(自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)

【セグメント情報】

当社は、管工機材の卸業者として、バルブ、継手、冷暖房機器、衛生・給排水機器及びパイプ類等の仕入・販売の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自平成28年6月1日 至平成29年2月28日)	当第3四半期累計期間 (自平成29年6月1日 至平成30年2月28日)
1株当たり四半期純利益金額	64円32銭	67円69銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(千円)	259,076	272,638
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益金額(千円)	259,076	272,638
普通株式の期中平均株式数(千株)	4,027	4,027

(注)潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成30年4月13日

株式会社オータケ
取締役会御中

有限責任監査法人トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 大 中 康 宏 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 伊 藤 達 治 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社オータケの平成29年6月1日から平成30年5月31日までの第66期事業年度の第3四半期会計期間（平成29年12月1日から平成30年2月28日まで）及び第3四半期累計期間（平成29年6月1日から平成30年2月28日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社オータケの平成30年2月28日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

(注) 1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. X B R L データは四半期レビューの対象には含まれていません。